

6 年 1 組

自然と共に過ごしたい 2年目の村づくり
海と仲間に合わせて完泳したい 谷浜鍛錬会



どうやって屋根をつけたらいいのだろう

今年で2年目となる村づくり。竪穴住居も骨組みが完成してきました。そして、どんな材料で屋根をつけていくか話題になり、「テントのようにビニールシートでかぶせたらいいのではないか」、「ベニヤ板でつければいいのではないか」、「たくさん生えている葦を使えないか」など様々な案が出されました。昨年度、茅葺屋根のお家を見学させていただいたことを思い出した子どもたちは、葦や藁などの植物を使って屋根をつけていくことになりました。「でも葦とか藁って、本当に雨が降っても雨漏りしないのかな」と不安に思ったAさんの問いをきっかけに、子どもたちは茅葺屋根について調べていくことにしました。すると、葦や藁などの萱と呼ばれる植物は、水を吸い付けて下に流してくれる働きがあることを知り、自然が持つ力に驚かされていたようでした。

さらに茅葺屋根について調べようと戸隠村にある(株)縄文屋根を訪ねてみました。そこにあった竪穴住居は、まさにわたしたちが目指している住居そのものでした。竹や木、屋根には藁や笹など使えるものは全て利用して家を建てていました。縄文屋根の渡辺さんは「どんなものでも人間が知恵を働かせれば、材料として使っていける」と語っていました。そんな自然を使って共に生きていくことの素晴らしさを学んでいきたいです。



あれ？今年、水が溜まりすぎていない？

米作りも2年目となり、昨年度鳥に食べられてしまった苦い経験を生かして害獣対策を考えながら田植えをしました。土づくりでは、田んぼに若干傾斜があり、水の溜まり具合が場所によって違ったので、平らにしていけることも工夫してみました。2年目ということもあり、手際よく田植えをし、数時間で終わることができました。

しかし、次の日になると水位がかなり上昇し、2日目にはほぼ満水状態になっていました。せっかく植えた苗が浮いてしまっていました。この沼地はどこからか水が湧いてくる場所で、水の出所を特定できていません。地下から湧き出ているのか、近くにある水路から漏れているのかいまだにわかっていません。さらに、沼地を深く掘ったため、排水溝よりも水位が下にきてしまっていました。自然に排水することが難しい田んぼでもあるのです。この問題の解決方法として2つ案が出されました。1つ目は、水がどこから来ているのか見つけ出し、水路をつくる。2つ目は、排水装置をつくるでした。Bさんは「線路わきにある水路が絶対に影響している」と言い、早速、沼地たる所以を調べに出かけ、どうにかできないか行動に移していました。新たな問題に直面し一筋縄ではいかない村の田んぼ。それでも解決策を見出し、わたしたちにできることを精一杯考え抜いていきたいです。



海と共に

6年生の行事、谷浜鍛錬会が7月14日～16日の3日間で行われました。海で遠泳をする、今年で125年目を迎える行事です。この鍛錬会のためにプールで遠泳の練習に取り組んできました。「エンヤコラ」のかけ声に合わせ、グループになり平泳ぎで泳いでいきます。初めは1分間から泳ぎ、谷浜鍛錬会前日は最長の25分間泳に挑みました。25分間を泳ぎ切り、谷浜での遠泳に自信をつけていました。



谷浜鍛錬会初日は、波が高くリージョンプラザのプールで泳ぎこみとなりましたが、2日目に海に入ることができました。待ちに待った海での泳ぎ込みが始まり、それぞれのグループが配置につきました。小田切先生の「せーの!」の合図で一斉に海の中に頭を入れます。泳ぎ込みが始まり1分ほど経つと、EグループのCさんの様子がいつもと違いました。泳ぎ込みを中止させ、グループから引き上げると体が硬直し、震えていました。そのまま岸で座ってみんなの泳ぐ様子を見ていました。話を聞くとCさんが「パニックになった」と言葉をもらしました。Eグループは一番深い場所で泳ぎ、足がつかずません。さらにプールでは起きない波や地面や前の人が見えない恐怖もあり、「1人になる」が怖かったのでしょう。広い海の中のたった一人の私を感じたからこそ、恐怖に感じたのだと思います。Cさんは座りながら、2回目の15分間泳を見ていました。残り5分になったとき、Cさんが海の中に入って「残り5分だけ入ってもいいですか」と言いました。恐怖に打ち勝とうとしているCさんがいました。私はCさんに並走しながらCさんの様子を見ていました。Cさんは、体のこわばりや怖さもなくなり、5分間泳ぎ続けることができました。自分の中にある恐怖に打ち勝った瞬間でした。泳ぎ終えたCさんはやりきった笑顔でハイタッチして、「前のDさんが見えたから安心できた」と言っていました。一人になるために友を感じながら泳ごうとしたCさんの素敵な姿でした。



午後は20分間泳でした。Cさんは「大丈夫」と心強い言葉と共に海に入っていました。前のDさんを追いつきながら泳いでいましたが、50cmほど離れていた距離が次第に離れ、2m以上離していました。その後のCさんのふりかえりにはこう書かれていました。

今日は初めて海と出会いました。入水して並んでいる間、鼻に水が入りパニックになりました。そのまま泳いでみたけれど、前が見えない恐怖と深さと波で怖くなって泳げませんでした。泳ぎ切れなかった自分がすごく悔しかったです。先生に助けてもらって浜に出たとき、みんなの泳ぎを見て何か感じました。「エンヤコラ」の「ラ」のタイミングで一斉に上がった顔を見て、今までとは違う顔で、「絶対に泳いでやるぞ!」という思いがあるように感じました。きっとみんなも恐怖と戦っているはずなのに、終わった後のふりかえりでは怖かったという言葉が出てきませんでした。笑い合っていて、やっぱり仲間の存在ってすごいんだなと感じました。15分の時、挑戦しようという気持ちはあったけれど、やっぱり怖くて最後の5分から泳ぐことに決めました。わたしはその5分に思いを込めて泳ぎました。

午後の20分間は、私はやっぱり不安でしかたなかったけど、「仲間を信じ、1人になろう」とみんなで決めた目標に向かって頑張ろうという気持ちになれました。仲間を信じれば怖さを乗り越えてやり通せると思ったからです。みんながいるから1人になれると思うと、自分に勇気がわきました。

途中出てしまった私を受け入れてくれたEチームのみんなや先生に感謝したいです。

海に入れたのは2日目だけでした。3日目の最終日は25分間には挑戦できませんでしたが、海と向き合い、絵を描きました。海に合わせ、仲間と共に過ごしたわたしの「谷浜」が描かれているように感じました。

